



充実した夏休みにするために

明日から、いよいよ子どもたちが楽しみにしている夏休み、「普段はできないことに思いっきり挑戦！」することができる夏休みが始まります。今年の夏休みは、44日間です。

当然ながら、与えられる時間は皆平等です。その期間をいかに「充実した夏休み」にすることができるかは、本人次第です。私の考える充実させるためのキーワードは3つ ①時間を意識する ②目標をもつ ③挑戦する です。

①については、夏休み中は普段の学校生活と異なり「この時間は何をする」が決まっておらず、「何をすべきか？」を自分の意思で決めなくてはならない場面が多くなります。極端に言えば、何をしても自由なのです。私は当然、楽しいこと、面倒でないことを選択します。それも含めて、自由なのです。長時間でなくてもよいので、無理なく取り組める計画が大切だと私は思っています。気分が乗らないときは短時間でもよいかもしれません。ただし、「やらない」という選択は避けたいです。もちろん夢中になったら延長ありです。この程度の心構えだと私の場合、ストレスはそれほどかかりません。②については、全体のスケジュール感、目標(ゴール)をイメージしておくことを大切に「いつまでに終える(完了させる、できるようにする)か？」を



意識します。①と同様に、計画通りに進めることは大切ですが、柔軟に対応することもありにしています。③については、「うまくできなくてもあきらめない」「がんばっていること」ことを「よし!」とするマインドをもつことです。ここは、周囲の協力(「がんばっているね!」の声かけ)も必要です。人それぞれモチベーションの高め方は異なると思うので、それぞれの取り組み方や、過ごし方が早く見つけられるようご支援いただけますと子どもたちにとって「成長を実感できる充実した夏休み」になると思います。



第1回学校保健委員会開催

7月3日(木) 学校医、学校薬剤師、PTA保健体育安全部及びPTAの皆様にお集まりいただき、第1回学校保健委員会開催しました。委員会では、本校の体力向上の取組、定期健康診断結果や熱中症対策について説明した後、「がん教育」(文科省指定)に関する動画を視聴して、協議を行いました。



【学校保健委員会の様子】

今回は、学校薬剤師さんの監修によるスポーツドリンクを参加者の皆さんが手作りし、試飲する企画もありました。(作り方: 麦茶350ml、砂糖スティック3本、塩少々を混ぜるだけです。)

なお、本校の学校薬剤師さんが、桐生市教育委員会から功労賞を受賞されましたので、本委員会の中で授与式を行いました。

更生保護女性会から学校へ

7月11日(金) 更生保護女性会から代表の6名の皆様が来校し、今年度も皆様が手縫いした雑巾が学校に寄贈されました。また、子どもたちへは、ビスケット、ポケットティッシュ、絆創膏をいただきました。「次代を担う青少年の健全や社会を明るくする」といった会の理念に基づく活動と聞いております。改めて、会員の皆様に感謝申し上げます。

なお、年明けの2月には、会員の皆様による「薬物乱用防止教室」を6年生に行っていただく予定です。



【更生保護女性会の皆様】

<お知らせ>

右のQRコードから西小のWebページをご覧いただくと、過去の「学校だより」等がご覧いただけます。



西小ホームページ

西小の取組紹介⑤

がんばっている西小の子どもたちや先生方を紹介します！

6年生 租税教室開催



【税金の種類と使い道について】

6月19日（木）ボランティアの皆様に来校していただき、租税教室を開催しました。租税教室は、毎年、6年生を対象に社会科の授業の補完として行っています。税金は、なぜ必要なのか、そしてどのように私たちの生活に役立てられているのか、DVDの視聴や現金のサンプルを使って、わかりやすく説明していただきました。税金を納めることをネガティブに捉えてしまうこともあります。救急車や消防車の運用、学校の整備や運営など、私たちの身近なところに使われていることがわかると、納めた大切な税金は、有効に使ってほしいという気持ちになりました。

桐生市教育委員会表彰 西小の先生！市内最多6名受賞の快挙！！

7月11日（金）桐生市教育センターで、第72回桐生市教育委員会表彰式が開催されました。昨年度の教育実践を教育実践論文にまとめたものが審査され、桐生市の教育振興への貢献が顕著であったと認められた論文が表彰されるというものです。

今年度、桐生市全体で7名（6点）が受賞しましたが、そのうち西小の先生方6名（高橋美、加賀美、塚越、河合、和田、校長、）でした。この結果（6名全員が最高賞の「入選」）からも西小の先生方ががんばりを分かっていただけだと思います。今回、受賞された先生はもちろんですが、西小の先生方の日々の「学び続ける姿勢」は素晴らしいと思います。

【受賞分野 高橋美・加賀美：学校保健 塚越：健康体育 河合：学校事務 和田：教科指導 校長：学校経営】



【授賞式後に集合写真】

夏休みの宿題

を考える...

校長室から

「分かる」ためには

果たして「宿題がない夏休みって最高！」か？ 群馬県の非認知教育推進アドバイザーでもある工藤雄一さんの著書「学校の当たり前をやめた」の中に、以下のようなことが書かれていました。

宿題があることで、子どもが勉強机に向かうことができるので安心する気持ちはわかりますが、大切なのはその中身です。宿題の意味は、学校で学習すべき内容を理解できるようにすることで、「やらされる学習」ではなく、主体的に学ぼうとする仕組みを整えることです。

「分からない」ことが「分かる」ようになるためには、2つの作業が必要です。一つは、聞いたり、調べたりすること。二つ目は、繰り返すことで定着させることです。定着させるには、書き写したり、読んだり、何かと何かを関連づけて覚えたりする方法がありますが、大切なことは、自分に合った方法を身につけることです。その方法こそが、その人の生涯を支えるスキルとなるのです。

「学校の当たり前をやめた」より一部抜粋

例えば、漢字テストで間違えたらその文字を10回ずつノートに書いて提出する宿題がありました。私は「へん」と「つくり」を分解し、効率的に数をこなす「作業」を行ったり、文字を「写す」ことに集中したりして宿題を提出する。この時「作業」をこなす際の脳は、思考停止状態で、到底「学び」にはなりません。学習には「できない」ことが「できる」ようにするプロセスがないと（単なる反復だけでは）意味がありません。宿題は、あくまでも「目的」ではなく、授業の内容を理解するための「手段」です。何が「分かる・できる」かは、人それぞれです。そのことのみを誰かと比べて一喜一憂するのではなく、自分に合った方法と自分のペースで「分かる・できる」ことを増やせばよいのです。夏休み中は、学校での一斉授業とは異なり、子どもたちは、それぞれが選択した学習内容を試行錯誤しながら、自分のペースで学びに向かうことができるよい機会です。皆様には、子どもたちを励まし、その子にあった支援や声かけをお願いできればありがたいです。

